

土曜 ライフ・楽しむ

突然「取り立て」寂しい出来事



生活情報誌「悠悠と。」

編集長・真鍋康利



くさんいらっしやいます。だから未収があればすぐに回収の専門業者に回しています」と言います。機械的に処理しているのでしょうか。

いやあ、びっくりしました。先日会社に届いた郵便が怪しいんです。今風の圧着はがきに「非常に重要なお知らせ 至急確認を」とあり、社名が「〇〇債権回収株式会社」、住所は東京、連絡先が福岡です。これって取り立て屋？

まったく心当たりはなく、これがうわぎの悪徳商法かと思ったものの、とりあえず封すると電信振込依頼書が現れました。

しかしよく考えると、8千円ばかりを請求するのにここまで体裁を整えるのは手が込みすぎていて、詐欺としては効率がよすぎそうにありませぬ。不思議に思い詳しく見ると、目立たない場所になじみの社名を見つけました。

〇〇〇〇

電力関係のこの会社とは長く付き合ってきました。しかも最近の事務所移転に際しては、短期間に契約先、アンペア数、移転に伴う諸手続きなど、少し煩雑な変更があったので、何度も電話でやりとりしています。混乱時には郵便物の再発行も依頼しました。いつも同じ番号にかけ、出る人は異なっても親切に対応してくれました。

はがきに記載された番号は怖いので今回もいつもの番号に電話。「怪しいはがきが届いたがこれは何ですか」と聞くと、調べるに、ある月の

半月分が未収と言います。

引越しの混乱の中で見落としたかもしれないし、期間の確認が漏れていたようで、そこは反省します。しかし、小刻みに届いた請求書に対しその都度コンビニや郵便局、引き落としなどでマメに支払っています。にもかかわらず、突然「取り立て屋」から連絡がくるとは。思い切り驚いたし、心がざわつきました。

「電話を一本、この期間の分が抜けてるよと言ってくれればすぐに解決したはず。転居したばかりだし夜逃げはないよ」と言うのと、担当者は、「今は電力も自由化され、乗り換えるお客さまもた

〇〇〇〇

「なじみ」「お得意」「常連」「顧客」、どれもよく聞く言葉です。客とお店との関係が深く、もうけの大きさは差があるかもしれないですが、お互いがそれなりに良い関係だと思っっているはずですよ。

浮気も考えず、勝手になじみと思っただけなのは私だけで、それほどの使用量でもないわが社は先方からしたら大したなじみ客ではなく、片思いだったようです。時代に逆行して節電を控え、無駄にもっとたくさん使おうとは決して思いませんが、ちょっと寂しい出来事でした。